

情 報 公 開 文 書

| | |
|---------------------------------|--|
| 研究の名称 | 脈管の変異によってもたらされた悪性病変の解析 |
| 整理番号 | |
| 研究機関の名称 | 国立大学法人富山大学 |
| 研究責任者 (所属・氏名) | 富山大学 学術研究部医学系 病態・病理学講座 山本誠士 |
| 研究の概要 | <p>【研究対象者】 2010年4月～2022年12月の間に angiosarcoma または粉瘤と診断された患者様、若しくは皮膚生検された患者様。</p> <p>【研究の目的・意義】 近年 angiosarcoma 治療薬としてキナーゼ阻害薬が注目され、パゾパニブが悪性軟部腫瘍の適応で臨床使用されており、ソラフェニブなどの臨床試験が進行中だが、奏効率は期待に反して高くないことがわかってきました(皮膚血管肉腫診療ガイドライン 2021)。この結果から考えられることは、angiosarcoma は他の軟部腫瘍とは異なる分子シグナルに依存して発症・増悪が制御されていると考えられます。このような仮説をもとに angiosarcoma の病因解明研究を行った報告はまだありません。従って、富山大学医学部が保有する angiosarcoma 病理検体を用いた後ろ向き解析研究を行い、angiosarcoma の真の病態分子機構を解明する必要があります。本研究の結果、angiosarcoma に対する有効な治療方法の開発につながる可能性があります。</p> <p>【研究の方法】 過去に取得された富山大学医学部が保有するパラフィンブロック臨床検体で angiosarcoma と診断された検体を使用します。これら検体に対して、網羅的な発現タンパク質解析、網羅的な発現 RNA 解析、網羅的な遺伝子変異解析を実施します。これらの結果を総合的に関連付けて解析し(横断的オミクス解析)、angiosarcoma の発症・増悪分子メカニズムを解明します。また、angiosarcoma が血管由来なのか(hemangiosarcoma)、リンパ管由来なのか(lymphangiosarcoma)を明らかにし分類できるのか、また分類する上でのカギとなる蛋白質や遺伝子が何であることを検討します。これは治療戦略を考えるうえで重要な事項となります。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2024年12月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 学会発表および英文誌での論文掲載</p> |
| 研究に用いる試料・情報の項目と利用方法(他機関への提供の有無) | 試料: 2010年4月～2022年12月までに病理学講座または皮膚科で angiosarcoma であると診断され、両講座でパラフィンブロックを保有している臨床検体。(なお、病理診断で明らかに angiosarcoma ではない有病対象群(粉瘤などの病理検体)は、2010年4月～2022年12月までに病理学講座または皮膚科で確定診断を行い、両講座でパラフィン |

| | |
|-------------------------------|---|
| | <p>ブロックを保有しているものとする)</p> <p>情報：診断名、臨床症状、病理組織所見、治療内容、臨床経過</p> |
| 研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名 | <p>富山大学 附属病院長 林 篤志</p> |
| 研究資料の開示 | <p>研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。</p> |
| 試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名） | <p>富山大学 学術研究部医学系 病態・病理学講座 山本誠士</p> |
| 研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口 | <p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-415-8879 FAX 076-434-5016 E-mail seiyama@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学 学術研究部医学系 病態・病理学講座 山本誠士</p> |